

韓国 リンゴ生産者の高温被害に対する支援を要請

[FreshPlaza 2025年11月4日](#)

慶尚北道議会のチェ・テリム議員(国民の力、義城第1選挙区)は、深刻な高温被害を受けたリンゴ生産者に対する即時の支援措置を求めた。同議員は11月4日に開催された道議会において発言し、異常気象による被害を「気候災害」として公式に認定し、迅速な救済措置を講じるよう訴えた。

同議員は、昨年からの高温と異常気象により、韓国の主要果樹産地である慶尚北道のリンゴ園で広範な高温被害が発生しているとして、「昨年から今年にかけての持続的な高温と異常気象により、慶尚北道の主要なリンゴ品種に深刻な高温被害が発生し、生産者の生計に大きな困難をもたらしている。慶尚北道は全国のリンゴ生産量の60%以上を占めており、ここでの被害は直ちに全国の果樹産業の危機につながる」と述べた。

また、現行の農作物災害保険制度についても批判し、「高温被害は『生理障害』に分類されているため補償の対象外となっており、気候変動による損失を生産者がすべて負担している状況にある。本来、生産者にとって最後の頼みの綱であるべき制度が、現実を直視していない」と指摘した。

同氏は、中央政府及び慶尚北道当局の迅速な対応を求め、高温関連の被害を補償対象に含めるよう農作物保険制度を改正すること、加工用リンゴの政府買い上げを拡大すること、及び果樹園が高温に適応できるようインフラ整備に投資することを提案した。同氏は最後に、「生産者がこれ以上、気候変動の一方的な被害者であってはならない」と述べ、「慶尚北道と中央政府は責任ある行動を取り、生産者が再起できるよう効果的かつ根本的な対策を講じるべきである」と強く訴えた。

出典: Asia Business Daily

世界の2024年の果実・野菜輸出量は1億4,800万トン

[EAST FRUIT 2025年11月5日](#)

中国は20%増加し、スペインとオランダも力強く成長

2024年の世界の生鮮果実・野菜の輸出量は1億4,800万トンに達し、2023年の1億4,600万トンから2%増加した。国際貿易に関する国連のデータをスペイン果実・野菜輸出業者連盟(Fepex)が取りまとめた。

国連統計部の調査によると、昨年の世界の主要な果実・野菜輸出国は、中国、スペイン、オランダであった。

Fruitnet(果実専門の情報会社)は、中国の輸出量は2023年の1,110万トンから20%増加し、1,340万トンに達したと伝えている。スペインの輸出量は9%増加し、1,100万トンから1,200万トンとなった。

一方、オランダは18%増加し、1,100万トンから1,340万トンとなったが、これは主に他国からの青果物の再輸出によるものである。

メキシコは、2024年の世界第4位の青果物輸出国であり、輸出量は1,130万トンで前年から6%減少した。

エクアドルは2024年に12%の大幅な減少を記録したが、650万トンを輸出して第5位であった。ただし、国連のコムトレード(Comtrade)データベースにおける2023年の730万トンという数値はまだ確定していない。

米国は620万トンで世界第6位の輸出国となり、2023年比で7%増加した。これに、トルコ(440万トン)及びグアテマラ(430万トン)が続いた。

国連のコムトレードデータベースは、政府、学術機関、研究機関及び企業による利用に供するため、年間及び月間の世界の詳細な貿易統計を製品別及び貿易相手国別に集計している。

国連統計部が編纂したデータは約200カ国を対象とし、世界の物品貿易の99%以上を網羅している。